

センター公式YouTube
地球温暖化防止啓発動画を公開中!

センター公式SNSも
ぜひチェック!

啓発動画 見つけよう!あなたにぴったりの
#サステナブルな暮らし



気候変動の視点から、わたしたちの生活の中でできる「サステナブルな暮らし」をご紹介します。4つのTYPEの中から、あなたにぴったりなものが見つかるかも!?



イベントアーカイブ 「大阪湾の生き物たちの
いま・むかし」



長年大阪湾の調査をされてきた、鍋島靖信先生(大阪市立自然史博物館友の会会長)の解説と、大阪湾の生き物たちの貴重な写真や動画は必見です!



@osk_ondcenter



@osk_ondcenter



@osk_ondcenter



マスコット
キャラクター
「えこたま」



みどり公社HPに
アクセス!



「えこと」は地球環境を守るために、私たちの暮らしをちよこつと(少し)だけ、えーこと(良いこと:やさしい)、エコロジカルにしよう、大阪言葉を交えた意味を込めています。

編集・発行/大阪府地球温暖化防止活動推進センター
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 一般財団法人大阪府みどり公社
TEL.06-6266-1271 FAX.06-6266-8665 http://osaka-midori.jp/
編集協力・印刷/株式会社ウルハーツ
〒564-0053 大阪府吹田市江の木町17-1 コンパノビル 2F
TEL.06-6378-9500 FAX.06-6378-9550 http://www.w-hearts.jp/



第2回 イベントレポート
ゼロカーボン・ダイアローグ
「ファッション×デザイン×アクション 若きイノベーターが拓く脱炭素アパレル」

大阪府では、2050年の府域のCO₂排出量実質ゼロや、大阪湾のプラスチックごみのさらなる汚染ゼロの実現など、暮らしやすい持続可能な社会の構築をめざしています。

その一環として、3月12日にオンラインにて、第2回ゼロカーボン・ダイアローグ「ファッション×デザイン×アクション 若きイノベーターが拓く脱炭素アパレル」が行われました。

このイベントでは、ゲスト2名の講演とトークセッションのほか、2025年大阪・関西万博に向けて、環境改善への取り組みのアイデアを検討している「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」のチームメンバーのプレゼンテーション、その後全員参加でトークセッションが行われました。

ゲスト講師2名による講演会

Synflux株式会社代表の川崎和也さんの講演では、AI技術を活用した衣服・生地等の資源ロスの削減など、次世代の環境問題を解決するアパレルを開発していくことで、脱炭素社会を実現しようと取組まれています。現在問題になっていなくとも、今の行動によって未来がどうなるのかを考えて、常に行動してほしいと締められました。

次にお話をされた齋藤明希さんは、自身がブランドファウンダーを務める「PLASTICITY」で、年間6400万本ものリサイクルされず埋め立てにより廃棄されているビニール傘の現状に着目し、それらを素材としたバッグを製作・販売されています。



▲「PLASTICITY」のバッグ。使用時や廃棄時のサビも製品のアクセントになっています。

齋藤さんは「10年後になくなるべきブランド」のコンセプトどおり、「近い将来、材料となるビニール傘がなくなることで生産できなくなる社会になってほしい」と語られ、多くの人が考え、作るということに参加してほしい、持続可能な社会は楽しんで続けられることを探ることが重要だと締められました。

「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」アイデアプレゼン

次に、2025年大阪・関西万博に向けて環境改善への取り組みのアイデアを、多くの若者(高校生・大学生等)から募集して、発信する「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」によるアイデアプレゼンが行われ、その後のトークセッションにて出演者と意見交換をしました。

詳しくは [万博×環境 未来を描こうプロジェクト](https://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/room/expo_future_project.html) 検索

https://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/room/expo_future_project.html



▲会場の様子

イベントを通して

未来がどうなるか、まだ問題が起きていないから今はやらないという考えではなく、積極的にそういった活動に賛同や参加をしていくことが大事だと考えます。

今回は「ファッション」という身近なテーマを通してわかりやすく、また親しみやすい内容でした。このイベントの様子は、アーカイブ動画にご覧いただけますので、参加できなかったみなさんもぜひご覧ください。

詳しくは [ゼロカーボン・ダイアローグ](https://2021zerocarbonialogue.localinfo.jp/) 検索

<https://2021zerocarbonialogue.localinfo.jp/>

2022年4月8日 大阪府民の森 ちはや園地 イベント情報

イベント担当/ (一財)大阪府みどり公社 森林緑地チーム
TEL.06-6266-1038 FAX.06-6266-8665 mail:ryokka@osaka-midori.jp

<p>星空観察会 【雨天・曇天中止】 ミュージアムの星見台から宇宙の観察をしよう!星雲や惑星を400mmの反射望遠鏡で観察できます。 【期間】4月2日(土)、23日(土)、30日(土)、5月3日(火・祝)、4日(水・祝)、7日(土)、28日(土)、6月4日(土)、18日(土)、7月23日(土)、30日(土)、8月6日(土)、12日(金)、13日(土)、20日(土)、27日(土) 【時間】19:30~21:00 【料金】700円 【持ち物】懐中電灯、暖かい服装 【申込】参加にあたっては、金剛山キャンプ場での宿泊が必要となります。観察会の参加とキャンプ場の宿泊を同時に電話にて申込み 【申込先】ちはや星と自然のミュージアム 電話:0721-74-0056</p>	<p>ペンダントづくり 金剛山の森で集めた木の実や小枝ですてきなペンダントづくりに挑戦! 【期間】4月29日(金・祝) 【時間】10:00~11:00、13:00~14:00 【定員】各20名 【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。</p>	<p>野鳥観察会 初心者のための野鳥観察入門! 双眼鏡の使い方から始めます! 【期間】5月4日(水・祝) 9月19日(月・祝) 【時間】10:00~12:00 【定員】各30名 【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。</p>	<p>森のおもちゃ作り 木の実などを使ってかわいい森のおもちゃを作ります。 【期間】5月5日(木・祝) 7月31日(日) 【時間】10:00~11:00、13:00~14:00 【定員】各20名 【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。</p>
<p>夏の昆虫観察会 夏の金剛山では、チョウやトンボ、そして甲虫などいろいろな昆虫に出会えます! 【期間】7月23日(土) 【時間】13:00~15:00 【定員】30名 【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。</p>	<p>たわしでリスづくり たわしからピクリするようなかわいいリスが作れます 【期間】8月7日(日) 【時間】10:00~11:00、13:00~14:00 【定員】各20名 【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。</p>	<p>夏休みウキウキ実験工作 熱や磁石を使った実験で、自然の不思議を体験! 【期間】8月11日(木・祝) 8月14日(日) 【時間】10:00~11:00、13:00~14:00 【定員】各20名 【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。</p>	<p>天体教室と森のキーホルダーづくり ミュージアムの星空案内人がお話しする、楽しく不思議な天体のお話と小枝や木の実など森からの贈り物でつくるオリジナルキーホルダーを作ります 【期間】8月13日(土) 【時間】10:00~11:00、13:00~14:00 【定員】各20名 【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。</p>

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止又は順延する場合があります。



えこと OSAKA にご意見をお寄せください。

ご意見はこちらから <https://goo.gl/aZVbQn>

ご家庭や会社で取組んでいるエコ活動や、身近で地球温暖化防止に役立っている商品、設備、施設等ありましたら教えてください。その他、本紙の感想や取り上げてほしい特集なども、右のQRコード、または上記のアンケートフォームよりお寄せください。みなさんのご意見・ご感想お待ちしております!



えこと OSAKA を購読しませんか?



継続して購読されたい方は、1期(年3回発行)送付分の切手、84円3枚を添えて、郵便番号、住所、氏名、電話番号、何号分を送付をご希望かを記入のうえ、大阪府地球温暖化防止活動推進センターまで郵送にてお送りください。

●あて先 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 大阪府地球温暖化防止活動推進センター 近隣の市町村(環境担当部署)、消費生活センター、図書館、府民情報プラザなどでも配布しております。

えこと OSAKA は、カーボンオフセット付の環境にやさしい情報紙です

本紙は1部あたり10.2gのCO₂(ライフサイクル)を排出しますが、これを大阪府域において実施された森林吸収(間伐促進型プロジェクト)で創出されたクレジットでオフセットしています。



積水ハウス株式会社 目指すは建築から解体まで、CO₂排出ゼロ 「わが家」を世界一 幸せな場所にする

1960年設立から住宅業界をリードし続けている積水ハウス株式会社。2014年に本社のある梅田スカイビルを中心とする新梅田シティが内閣総理大臣賞を受賞されました。今回、積水ハウス株式会社 ESG経営推進本部 環境推進部 温暖化防止推進室の野口 悟志さんにお話を伺いました。

編：えこっと OSAKA 編集班
野：積水ハウス（株）・野口さん

家一軒ではなく、社会全体で取り組む

御社の「カーボンニュートラルに向けた取り組み」でどのような社会貢献を目指されていますか？

積水ハウスグループは「わが家」を世界一幸せな場所にするというグローバルビジョンのもと、お客様の幸せな暮らしの実現を目指し、安全・安心、健康・快適に暮らせる住まいづくりを行っています。しかし、気候変動に伴う自然災害の激甚化が進む世の中で、社会全体が幸せになるためには温暖化防止は必要不可欠だと考えています。このため、積水ハウスでは快適性・経済性・環境配慮を高いレベルで実現させる戸建住宅 ZEH^{※1}「グリーンファーストゼロ」の普及に努めており、全国での販売累計で6万棟（2021年3月末時点）を超えました。賃貸住宅「シャーマンズ」や分譲マンション「グランドメゾン」、オフィスや商業施設などの建築においてもゼロエネルギー化を促進しています。また、ZEHは太陽光発電を搭載していますので、停電時でも電気が使えるなど、気候変動に対する「緩和」と「適応」の双方に貢献でき、今後ますます増やしていくべき住宅だと考えています。

事業活動でもカーボンニュートラルを進めており、2017年10月に建設業界では日本で初めて、「RE100」^{※2}イニシアチブに加盟。この目標達成へ、再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT制度）の買取期間が満了（卒FIT）したオーナー様から太陽光発電の余剰電力を買い取る「積水ハウスオーナーでんき」を2019年11月から開始し、買い取った電力を事業用電力として利用始めています。

「建築から解体までCO₂排出ゼロ」を目指して
この事業に取り組むようになった背景についてお聞かせください。

当社の温暖化防止を意識した取り組みは1997年の京都における国際会議（COP3）の頃まで遡ります。この時、当社事業が温暖化に及ぼす影響を試算したところ、供給した住まいで居住時に排出されるCO₂が圧倒的に多いことが分かり、まずは省エネ住宅の普及を図りつつ、生産段階のCO₂削減にも取り組むべきと考え、これらの方針を「環境未来計画」として発表。高断熱や高効率給湯器の標準採用などの実効性ある取り組みを開始。その後、2005年に「持続可能性」を経営の基軸に据えることを宣言した「サステナブル・ビジョン」を発表し、2008年には、2050年までに全ての住まいの建築から解体までのCO₂排出量ゼロを目指す、いわゆる「2050年ビジョン」を発表しました。近年、気候変動に伴う自然災害の激甚化は、企業活動の安定継続を脅かしつつあります。私たちの事業中断は、オーナー様のサポートもできなくなり、関連する多くの工事業者や取引先への影響も小さくありません。このため、お客様はもとより、当社と関連する関係者全体の幸せのためにも、温暖化防止は不可欠であり、当社の使命であると考えています。

住宅業界において今後必要な事、具体的な取り組みがございましたらお聞かせください。

居住時に排出されるCO₂に次いで大きな割合を占めているのが、当社住宅の資材や部材調達・製造から施工まで一連の流れで排出されるCO₂です。カーボンニュートラルの実現は資材・部材メーカーを含む住宅業界全体で推進していくことが大切だと考え、取り組みを始めています。具体的には、2020年10月に当社取引先を対象に



実態調査を実施し、カーボンニュートラルへの意識、取り組み状況を把握。翌2021年には、先導的な取引先や当社の事例を紹介するとともに、SBT認定^{※3}取得や、「RE100」イニシアチブへの加盟手続きを案内する説明会を開催しました。これがきっかけとなりSBT認定を取得した企業も始めました。2020年時点での当社の主要取引先におけるSBT目標設定率は18.6%でしたが、これを2030年に80%まで引き上げる目標を定め、取引先と協力して進めています。

「わが家」を世界一 幸せな場所にする

将来の目標に対し、現状の課題がございましたら、お聞かせください。

日本政府の2030年までの削減目標46%を達成するためには、国民全体で省エネに取り組む必要がありますが、住宅を供給した側の責任もあると考えています。新築をZEHにする一方で5,000万戸を超える既存住宅の省エネ化も不可欠です。このうち、断熱性能が現在の省エネ基準を満たす住宅は13%しかありません。これらのリフォーム、ZEHへの建替替えが今後の課題だと考えています。

最後に「今後の取り組み」や「読者へのメッセージ」をお聞かせください。

積水ハウスグループは、2050年までに全ての住まいの建築から解体までのCO₂排出量ゼロを目指す「2050年ビジョン」の実現に向けて、事業活動全般において実効性ある取り組みを進めてまいります。環境配慮・省エネ性の高い住宅に住むことはカーボンニュートラル実現に一つ近づきます。お住まいをお考えの際には是非、このことに意識を少しでも傾けていただければと思います。

※1 ZEH：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略。省エネ・創エネにより、快適な室内環境を実現しながら年間の一次エネルギー収支ゼロを目指す住宅
※2 RE100：事業で消費するすべての電力を再生可能エネルギーで賄う取り組み
※3 SBT 認定：科学的知見に基づく温室効果ガス削減計画の認定



「積水ハウスオーナーでんき」 <https://noc.sekisuihouse.co.jp/denki/info.html>

